

○韓国側の資料カード

資料番号	K. II -37	資料名	倭館図
		<p>1783年(正祖7年)卞璞(生没年未詳)が草梁倭館の全景を鳥瞰図の景色に残した絵である。朝鮮後期の対日外交の中心地である草梁倭館の全景が詳しく、また完璧に描写されている。 卞璞は1763年の通信使行に騎船將として行ってきたが、それから20余年後、この絵を描いた。</p>	
<p>書画、紙本彩色、(縦×横) 131.8×58.4cm</p>			

資料番号	K. II -38	資料名	国書楼船図
			
<p>部分写真、書画、紙本彩色、(縦×横) 59.1×1515cm、58.5×1523.5cm(全体)</p>			
<p>通信使行の乗った船が朝鮮国王の国書を奉じ、大坂の淀川を通る場面を描いた作品である。通信使一行は難波橋に上陸し休憩をとった後、再び楼船(屋形船)で淀川を遡り、京都の南の淀に着いた後、そこから陸路で江戸まで行った。国書船、副使船、従事官船及び曳船、隨行船が詳しく描写されている。絵の制作時期は明確ではないが、幕府の御用画家が描いたものだと推定される。</p>			